

Nニチレイ 株式会社ニチレイ

デファクトスタンダードの安心感でCA Access Controlを採用 IT全般統制で求められる特権ユーザ管理を実現したニチレイ

“「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする”をブランドステートメントに、グループのネットワークを最大限に活用し、品質へのこだわりと培われた技術、新しいアイデアで笑顔あふれる食卓作りを目指す株式会社ニチレイ（以下、ニチレイ）。1945年に設立された同社は2008年3月末現在で売上約4636億円、従業員は約6000名を数える。2005年度より、持ち株会社であるニチレイを中核に、ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュ、ニチレイロジグループ、ニチレイバイオサイエンス、ニチレイプロサーブの基幹事業会社5社で構成されるニチレイグループとして事業を展開。働きがいの向上やコンプライアンスの徹底、コーポレートガバナンスの確立、環境への配慮など、新たな顧客価値を向上させるための取り組みを推進している。

一方、株式会社 日立フーズ&ロジスティクスシステムズ（以下、日立F&L）は、株式会社日立製作所とニチレイの合併会社として2003年1月に設立された。ニチレイの情報システム部が分社化し、設立された日立F&Lは、ニチレイグループの情報システム支援はもちろん、ニチレイグループ以外の企業にも、業務アプリケーション開発やアウトソーシングサービス、コンサルテーションなどを提供している。日立F&Lでは、ニチレイの全社統制の確立に向けた継続的な取り組みの中で、不正アクセスや情報漏えい、システム停止などのリスクを低減させるIT全般統制の実現にも取り組んでいる。その一環として、日本版SOX法の対象となる特に重要なサーバ33台に対して、特権ユーザ管理を実現するため、CA Access Control（以下、CAAC）を導入した。



（左）株式会社 日立フーズ&ロジスティクスシステムズ 情報企画本部 副本部長
総合企画グループリーダー 栗田 琢氏

（右）株式会社 日立フーズ&ロジスティクスシステムズ 情報企画本部 総合企画グループ
マネージャ 桐生 正広氏

株式会社ニチレイ

本社：東京都中央区築地6丁目19番20号ニチレイ東銀座ビル
創立：1945年12月1日
資本金：30,307百万円（2008年11月現在）
従業員数（連結）：6,054名（2008年3月31日現在）
事業内容：加工食品事業、水産事業、畜産事業、低温物流事業、不動産事業、バイオサイエンス事業
URL：<http://www.nichirei.co.jp/>

株式会社 日立フーズ&ロジスティクスシステムズ

本社：東京都中央区築地六丁目17番4号 築地パークビル
創立：2003年1月
資本金：3億円（2008年11月現在）
従業員数：84名（2008年10月現在）
URL：<http://www.hitachi-fls.co.jp/>

常に時代を先取りするニチレイの 情報システム

ニチレイの情報システムは、加工食品系システムと低温物流系システムの大きく2つで構成される。同社では、1988年に低温物流システムが稼働するホストシステムの集中・統合を実施したほか、1991年には加工食品系システムと低温物流系システムのデータ交換のリアルタイム化を実現した。また、1995年にはハードウェアをデータセンターに移設し、翌年にはLotus Notesの導入および営業系自由検索システムのオープン化を実施。1998年にデータウェアハウスの構築を、2001年に1年半かけてビッグバン方式で加工食品系シ



栗田 琢氏

「デファクトスタンダードで、信頼性が高いことがCAACを採用した最大の理由でした」

テムをSAP R/3に移行。また、2003年には低温物流系システムのオープン化を実施するなど、2007年のSAP R/3のバージョンアップ作業も含め、絶えずシステムの拡張を続けている。

日立F&L 情報企画本部 副本部長 総合企画グループリーダー 栗田琢氏は、「ニチレイは、常に時代を先取りしたシステム化を推進している会社といえます。特に低温物流システムは、国内では最大の規模であり、世界でも第6位のシェアを誇る低温物流事業を支え、最新の機能を有するシステムだと自負しています」と語る。

2007年には、日本版SOX法に向けたIT統制対策を本格化。特に重要なシステムへのアクセス管理を徹底するため、特権ユーザの管理を推進。まずはSAP R/3上の特権ユーザ管理を実施したが、アプリケーションレベルだけでなく、アプリケーションそのものが稼働するOSレベルでの対策も必要不可欠だと判断し、CAACの導入が決定した。

日本版SOX法の対象となる重要なサーバに対し
特権ユーザ管理を実現するためCAACを導入！

IT全般統制の実現の一環として CAACを導入

日立F&L 情報企画本部 総合企画グループ マネージャ、桐生正広氏は、CAAC導入の経緯を次のように語る。

「特権ユーザの利用に関しては、監査でも指摘を受けていた部分でした。最初にSAP R/3上の特権ユーザ管理を実施しましたが、アプリケーションレベルだけでなく、アプリケーションそのものが稼働するOSレベルでの対策も不可欠だと考え、サーバ上の特権ユーザを対象としたアクセス管理製品を探し始めたのです」（桐生氏）

現在、ニチレイでは、113のシステムが約200台のサーバ群で稼働している。この中からCAACの対象となるサーバを決める作業から実施した。そのプロセスは、こうだ。

まず、財務報告に関連しないシステムを除外し、さらに重要な業務プロセスに関連しないシステムも対象外とした。残った23システムを、財務報告の信頼性という観点から、主要システムと、その他システムに分類。「主要システムはより重点的に整備をし、その他システムは効率的に整備を行う」という方針の下、CAACは両システムを合わせて23システム、33台のサーバ群に対して導入することになった。

「ニチレイの中で最も重要な23システム、33台のサーバ群は、CAACによる特権ユーザ管理が必要と判断しました」（栗田氏）

業界標準とアシストのサポート ダブルの安心感でCAACを採用

CAACを選定した理由を、「デファクトスタンダードで信頼性が高いこと」だと栗田氏は語る。「稼働中のシステムに導入するものなので、リスクを最小限にしたいと考えました。また、アシストはCAACの導入実績が豊富で信頼できるベンダーだと思っています」（栗田氏）

今回、CAACで実施している特権ユーザ管理は、次のような内容だ。

- 特権ユーザでの直接ログインは禁止。利用者は、必ず個人IDでログインを行う。
- 個人IDでログイン後、業務上、特権ユーザを利用する必要がある場合には、個人IDから特権ユーザになりかわる。
- 利用者のログイン/ログアウトのログ、特権ユーザへのなりかわり時のログ、重要ファイルへのアクセス・ログを取得する。

これらの対策の結果、「誰が、いつ、特権ユーザとして、どのような作業を行ったか」を把握することが可能となった。

「CAACが導入されているサーバでは、特権ユーザで作業した利用者のログが、なりかわる前の個人IDで記録されるため、これまで個人依存していた作業の透明性が向上しました。この機能は、特権ユーザ管理を行う上で必須



桐生 正広氏

「CAACのGUIツールは非常に
使いやすいので運用が楽になりました」

だと考えています」（栗田氏）。

さらに、栗田氏はCAACのワーニングモードも評価しているという。

「CAACには、ポリシーに従ってログは取得するが、アクセス制御は行わないワーニングモードがあります。ワーニングモードを利用すると、ルール違反があった場合に、警告メッセージがログに出力されます。実際にアクセス制御をかける前に、警告メッセージを確認しながら、ルールが適切かどうかのシミュレーションができ、必要であればルールをチューニングしながら進められるため、安心して本番環境にも適用できます」（栗田氏）

また、桐生氏は「基本的にアクセス制御系のシステムは、コマンドベースの管理ツールが多いのですが、CAACの管理GUI（ポリシーマネージャ）は非常に使いやすいので運用が楽になりました」と語る。

特権ユーザ管理の範囲を拡大 申請ワークフローシステムも構築

2008年10月現在、CAACは20台のサーバに導入されている。今後、残り13台のサーバにも、順次CAACを導入する予定だ。また、今回は対象から除外されたシステムやサーバにも必要に応じてCAACを導入し、特権ユーザ管理を行うことも検討中だ。

さらに、日立F&Lでは特権ユーザの利用申請と利用実績の管理も検討している。

特権ユーザの利用を希望する場合には申請書を提出し、承認を受ける。システム管理者は、ワークフローシステムで申請書を受け取り、対象サーバ上に特権ユーザを登録する。そして、作業完了後に、サーバ上に記録されたログと申請内容を突合せ、比較することで不正アクセスや操作を監視する、というものだ。

「今回、CAACのテスト導入を行いながらアシストから教育などの支援サービスを受けました。『重要システムに導入する製品についてはブラックボックスを作らない』という、日立F&Lの方針をアシストに理解してもらい、スキルトランスファーを十分にいただけたので、我々に必要なスキルを習得することができました。今後もさまざまな面で、アシストのサポートを期待しています」（栗田氏）

（2008年10月 取材）

株式会社アシスト
URL: <http://www.ashisuto.co.jp/>
製品 URL: <http://www.ashisuto.co.jp/prod/acx/>
E-Mail: ics_web@ashisuto.co.jp

- 東京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷東急ビル
TEL: 03-5276-5565
- 札幌 〒060-0808 札幌市北区北8条西4-1-1 バストラルビルN8 5F
TEL: 011-746-8484
- 仙台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア11F
TEL: 022-713-5802
- 名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2-14-21 円山ニッセイビル11F
TEL: 052-232-8211
- 松本 〒390-0815 松本市深志1-4-25 松本フコク生命駅前ビル6F
TEL: 0263-39-1315
- 金沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ポルテ金沢8F
TEL: 076-260-4921
- 大阪 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル28F
TEL: 06-6373-7113
- 神戸 〒650-0035 神戸市中央区浪花町59 神戸朝日ビルディング22F
TEL: 078-393-2115
- 広島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル3F
TEL: 082-224-6170
- 福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九軌筑紫通ビル9F
TEL: 092-481-7156
- 沖縄 〒901-2131 浦添市牧港5-2-1 沖縄電力本店別館6F
TEL: 098-942-5430

*記載されている会社名、製品名は各社の商標または商標登録です。